

# 西渋田遺跡現地公開

—和歌山橋本線地方特定道路改良事業に伴う発掘調査—

公益財団法人和歌山県文化財センター  
和歌山市湊 571 番地 1  
TEL: 073-433-3843  
FAX: 073-425-4595

西渋田遺跡発掘調査事務所  
伊都郡かつらぎ町西渋田地内 遺跡調査地  
TEL: 090-3272-8134

## はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは和歌山県より委託を受け和歌山橋本線地方特定道路改良工事に伴い西渋田遺跡の発掘調査をしています。調査地は紀ノ川の東岸の県道13号線の北側で、約1,140㎡の調査を行っています。この度、発掘調査によって古墳時代の遺構が確認されたので、調査成果を公開します。

## 発掘調査について

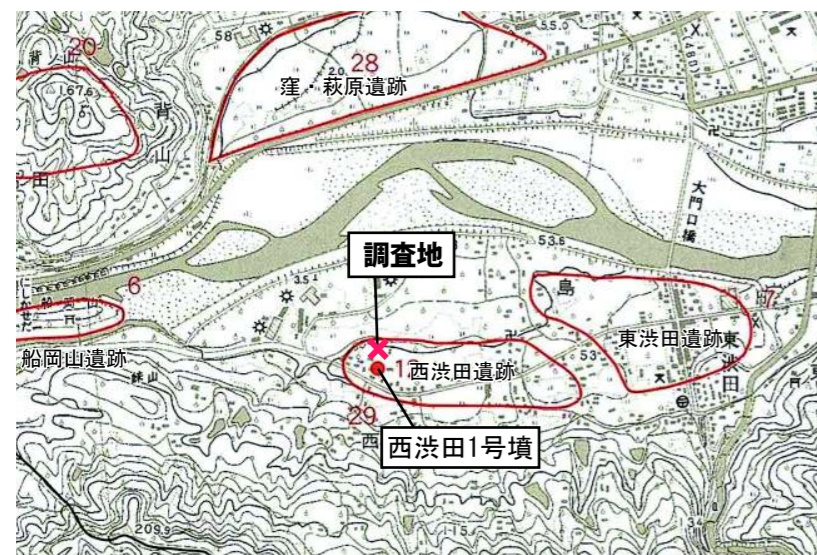
西渋田遺跡は、紀ノ川左岸の標高約60mの低位段丘面にある遺跡です。以前より、縄文時代の石鏃や縄文土器などが採取されてきました。中世の頃には、志富田荘(渋田荘)と渋田の名前がみられ、田畑を開墾し生活を営んでいたことが伺えます。西渋田遺跡の範囲内では、今回の調査地の南側で、昭和50年に西渋田1号墳が確認され発掘調査が行われていますが、遺跡の詳細は不明でした。

今回の発掘調査では、古墳時代以降の土坑や溝を確認しました。1区東端中央付近で検出した土坑からは、高杯の杯部が逆さまの状態出土し、壺と見られる土器の下で焼土を確認しました。また、1区東端南側の土坑では、高杯の脚部が3点出土しています。先に記した東端中央から南側にかけての土坑の下には、南北方向の幅が約7mの大きな土坑を検出しました。いずれも、古墳時代の遺物が出土しています。また、1区中央北端の土坑では、瓦器といわれる中世の土器が出土しています。その他、たたき石などの石器や石鏃、その原料のサヌカイトの破片なども出土しています。

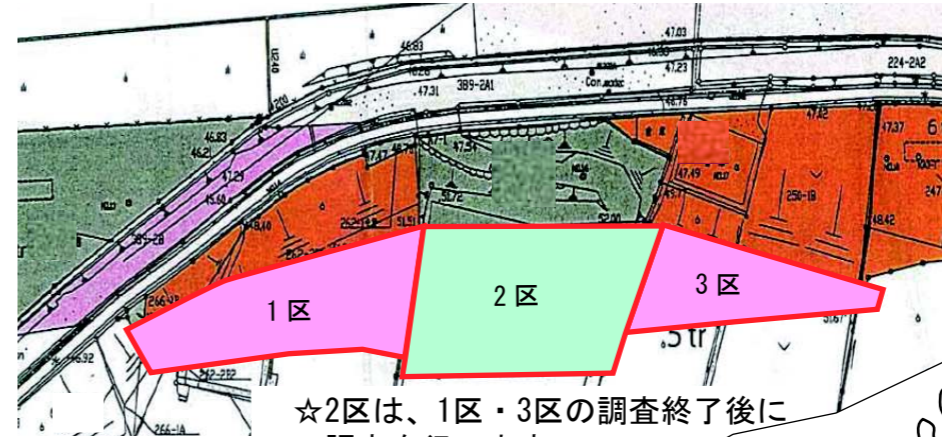
破片なども出土しています。

今回の発掘調査で、古墳時代以降、人々が生活を行っていたことが明らかになりました。また、調査地の北側には盛土がなされており、古墳時代以降、主に中世の頃に耕作地を広げるために南から土を押し出し整地したと考えられます。

調査区の中央南側を中心に古墳時代の遺構が検出されたことから、調査地の南側の現在宅地が広がる部分に古墳時代の人々の生活の基盤があるのではないかと推測されます。



調査位置図



☆2区は、1区・3区の調査終了後に調査を行います。



石鏃



1区 調査区平面図



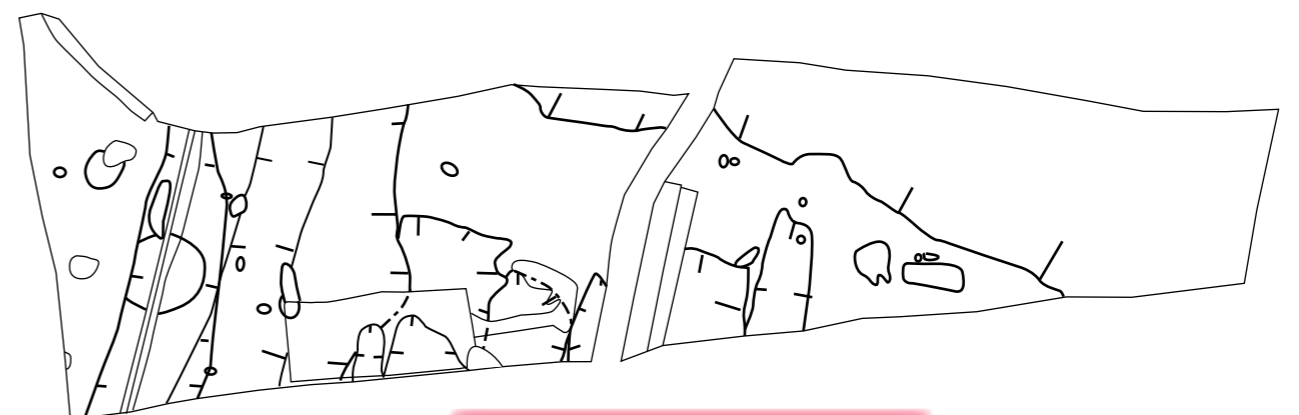
高杯出土状況



1区 調査区全景(東から)



土坑 035 土器出土状況



3区 調査区平面図